

UU ユー・ユー・ナウ now

3・11を撮る

OB.OG. INTERVIEW
フォト・ジャーナリスト

小原 一真
Obara Kazuma

CONTENTS

- 1 OB. OG. INTERVIEW
- 4 特集 / 学長訪問
- 6 地域貢献REPORT
- 8 Welcome to 授業
- 9 Welcome to 研究室&ゼミ
- 10 研究keyword / 私の学生時代
- 12 宇大生は今!
- 14 UU News
- 15 INFORMATION

3・11を撮る

東日本大震災発生から3日後、会社を辞め、宇都宮大学で出会った親友と、彼の実家のある宮城県南三陸町に車で向かった。実家は津波に流され、祖父は行方不明。泣き崩れる親友にカメラを向けた。

「なぜカメラを向けるのか」、いまでも葛藤がある。「でも、そこで彼の肩を抱いたところで、写真を撮らないというのは、何か違うような気がした」

『3・11』の混乱の中で、小原一真さんは、フォト・ジャーナリストとしての第一歩を踏み出した。

（取材協力／国際学部国際社会学科2年・平松舞、同・西川明子）



本紙取材協力班、平松 舞（写真右）と西川明子（中央）の後輩二人からインタビューを受ける小原一真氏（左）
（宇都宮大学「UUプラザ」の「小原一写真展」会場にて/2012年5月19日）

■ 近くに感じてもらいたい

震災発生時、金融機関の営業マンとして京都にいた。職場のテレビから津波の映像が流れて来た。2カ月前の正月に訪ねたばかりの親友、阿部和也さんの実家がある南三陸の光景が頭をよぎる。すぐに現地に行きたかった。

4月からフォト・ジャーナリスト



として本格的に活動することを決めていた。前倒しの退職が14日に認められ、その日の夜、自宅のある大阪を発ち、東京で働いていた和也さんと合流した。

「東北の人間として、被災地への思いを繋ぎとめておきたいと思った。地理的に遠い、近いではなく、実感として感じられるかどうか。だから、遠くにいる人に、できるだけ近くに感じてもらいたいという思いで写真を撮った」。最初の被写体が和也さんだった。

それから1年。小原さんは、ヨーロッパで大きな反響を呼んだ福島第一原発内部や、そこで働く作業員たちの姿を撮影した初めての写真集を発表した。

大切な友人が悲しむ姿にレンズを向けた自分が嫌に思ったことがある。でも、「この写真があったからこそ、その後、被災地の人たちともきちんと向き合って撮影することができた」という。

■ 中心になるのは僕たちの世代

「戦争をなくすことは可能か」。この宇都宮大学国際学部の推薦入試のエッセーのテーマが、フォト・ジャーナリストという存在を強く意識するきっかけだった。

エッセーをまとめるため、戦争関連の本を読み漁った。そのなかで、イラク戦争で使われたウラン劣化弾の影響による無脳症の赤ちゃんの写

はないのです。ですから、いま、きちんとこの問題に向き合っていかなければならないのです」

■ 「一真に撮られてよかった」

震災発生以来、1年の半分は大阪の自宅を離れ、被災の現場に立つ。

「本当に自分がやりたい仕事なので、苦労していると思ったことはありません。楽しいといったら語弊がありますが、被災地で出会った人たちが一人ひとり魅力的だったからこそ、いまでも取材を続けられています」。初めての写真集『RESET BEYOND FUKUSHIMA―福島の彼方に』の出版も「原発作業員の人たちが喜んでくれたことが一番うれしかった」

3月からスイスのフォト・エージェンシー「KEystone」に所属することが、写真を世界に発表する窓口になる。海外で認められるかどうか

真に遭遇した。「日本が加担し、自分も加害者の一人と考えていた戦争で、こうした被害が出ていることに、すごくショックを受けた。それまで知らなかった現実を教えてくれる写真というものに魅力を感じた」

大学入学後、本格的に写真を撮り始めた。メキシコを1カ月間バックパッカーで巡り、撮影した写真を授業で紹介した。アフリカのナイロビでは、スラムに入り、ドキュメンタリービデオを撮影した。



公開シンポジウム「3.11原発事故と国際学の未来」のゲストスピーカー小原氏（左）と原発事故処理作業員の二人
（5月19日/本学教育学部D棟にて）



『RESET BEYOND FUKUSHIMA―福島の彼方に』小原一真
Lars Muller Publishers(スイス)
■ 宇都宮大学生協にて特別販売中

は、「これからの自分の撮影次第」と語る。近い将来、「ジャーナリズムをしっかりと学ぶ」ため、海外留学も視野に入れる。

小原さんは、今春、結婚した。披露の場で祝いのスピーチをしたのが和也さんだった。

「（震災から）しばらくして、あのときの話をすることがあります。彼自身、南三陸が何とか復興してほしいという強い思いがあったし、僕は報道という立場で等身大の被災地の思いを伝えたかった。『一真に撮られてよかった』と言ってくれました。その言葉に救われました」

（取材・文：栃木文化社 ビオス編集室 / 撮影：今井正明）



■ 作 品
「小原一写真展3.11」
より（国際学部主催）
会場：本学「UUプラザ」
日程：5月19～25日

■ フランス展示会
会場：パリ市庁舎
日程：6月20日～
7月7日

■ 小原 一真【おばら・かずま】

1985年、岩手県生まれ。2009年、宇都宮大学国際学部国際社会学科卒業。金融機関で働く傍ら、Days Japanフォトジャーナリスト学校にて学ぶ。東日本大震災直後に会社を退職、3月16日から現地での取材を開始。福島第一原発での取材はヨーロッパ各国で報道される。12年3月、スイスのラースミュラーパブリッシャーより、東日本大震災、福島第一原発事故の取材をまとめた『Reset Beyond Fukushima―福島の彼方に』を出版。フォトエージェンシーKEYSTONE(スイス)パートナーフォトグラファー。
<http://kazumaobara.com/>

宇都宮大学をもっと知りたい！

地域貢献度上位ランクイン

石川・内沢―今日は学長先生といえる話をしたいと思いいました。よろしくお願ひいたします。

石川―早速ですが、宇都宮大学の目指しているものとは何でしょうか？

学長―簡単に言いますと、一つは教育の質を保障し、さらに向上を目指すということ。基盤教育センターが中心になって行っている高度専門職業人養成もその一つです。二つめは世界的水準を目指す研究支援。キヤノン株式会社との連携によって立ち上げたオプティクス教育研究センターが進めている高度な研究の支援などです。三つめは社会貢献のさらな

る推進、地域と大学の連携です。大学のモットーは「地域に学び、地域に返す。地域と大学の支え合い」であり、地域に根ざし、地域と対話し、相互に発展していくということです。

石川―入学する前から宇都宮大学の地域貢献度は全国的に高いと聞いていました。

学長―平成18年度は全国総合第1位になりましたし、それ以降もずっと上位ランクを維持しています。23年度は全国総合第2位（国立大学法人では総合第1位）に輝きました。

学長―ところで入学してからの宇大の印象はどうでしたか？出身は？

内沢―私は青森県出身です。キャンパスがとてもきれいだと思いました。それに、入学が決まってから、送られてきた入学書類の中にお米が入っていたのにはびっくりしました。

学長―それは「ゆうだい21」というお米です。実は「コシヒカリ」を開発したのは宇大農学部前身の宇都宮高等農林学校時代の卒業生、石墨慶一郎さんという方です。福井県の農業試験場に就職して開発されたんですね。その後輩である前田忠信先生（農学部名誉教授）が、農学部の附属農場で「ゆうだい21」を開発されたのです。

学長―昨年度から災害復興再生に向けた「学長支援プロジェクト」を進めています。今年度も14件の応募がありました。例えば、「福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト」、附属学校における放射線線量プロジェクト、や「栃木県内の地盤沈下や家屋倒壊の調査」などです。昨年度と今年度で計28の震災復興プロジェクトが進められています。これらの具体的な支援を一つずつ積み重ねていくことで、大学としての専門性を生かした大きな災害復興支援ができると考えています。教員も学生も協力し合っ



内沢 絢子（うちざわ じゅんこ）
工学部建設学科建築学コース1年

て、大学としてできることをやっていきたいと思っています。

石川―はい、僕もそのように受け止めていきます。ところで話は変わりますが、学長先生は多忙な日々をお過ごしと思いますが、趣味などは？

学長―今は忙しくて趣味がもてないですね。時にはリラククスも必要なので温泉には行きたいですが……恐らく、自分の性分に合った仕事（研究）の場合、その仕事に興味にもなると思います。私は36歳から磁石と鉄粉と研磨材を用いてパイプの内面を磨く技術を「磁気研磨法」と名付けて研究を始めました。他の人がやっていないことをやるのは楽しいで

宇大生 石川賢祐
内沢絢子

特集 学長 訪問



宇都宮大学 検索

学長―例えば、「災害ボランティア」の学生の派遣もその一つです。石巻市の幼稚園や学校などのガレキ処理などを手伝う活動です。また、農学部の里山科学センターを中心に那須烏山市の人たちと有機肥料による米作りを指導しています。さらに「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」の実施や、地域と連携したベンチャー企業の立ち上げなどがあります。その他、技術相談、特許相談、共同研究の推進、学外講演などです。教育研究を基盤として可能な限り地域貢献に努力しています。特に、産学官連携による共同研究には力を入れています。



進村 武男（しんむら たけお）
09年4月～宇都宮大学学長に就任

ずと道が開かれます。

内沢―宇大は国際学部もあり、交換留学が盛んですが、私もぜひ、留学したいと思っています。建設学科なので、ヨーロッパ、特にスペインに留学したいのですが。

学長―現在、アジアを中心に、ヨーロッパ、アメリカなどの50大学と国際交流協定を締結しています。「留学生・国際交流センター」を中心にグローバル社会に対応できる体制を整えています。国際社会に積極的な活動を展開できる大学でありたいと思っていますので、早速、担当教授に伝えておきましょう。どうして建設学科へ入学したのですか？

内沢―それはヨーロッパの建築に惹かれたからです。何年かに一度、建設学科の先生が学生を連れてヨーロッパを回っていますね。ぜひ参加したいと思っています。

損をしても正直なのがいい

学長―教育学部3年の石川君は将来のことを考えていますか？

石川―自分が大学で学んだことを地域に返していければと思います。卒業後は地方公務員として、地域のために活動できたらと思っています。地域に根ざした活動をするために県庁や市役所で働きたいと思っています。

学長―採用試験があるので、頑張ってください。私が地域共生研究開発センター長のとき、県内の中小企業の産学連携のお手伝いをしましたが、最初の仕事は栃木県北東部産業交流会の立ち上げ支援でした。那須烏山市と連携して、工学部の木村隆夫先生が自動車のフロントガラスの廃ガ

石川・内沢―学長先生の言葉をかみしめて、これからの大学生活を大切にしていきたいと思っています。ありがとうございます。

学長―ご苦労様でした。また、お会いしましょう。



一番重要なのは信頼関係

石川―宇都宮高等農林学校時代からの大谷石造りの古い書庫があります。が、大学で何か考えていますか？

学長―まだ、耐震などの整備が整っていないのですが、学生、教職員、市民が自由に語れるコーヒーストップを考えています。大谷石の雰囲気



すよ。データはみんなオリジナルです。から、研究論文は書きやすいですし、助成金も獲得できます。しかし、すぐにたくさんの方が追いついてきました。

（*学長の専門分野「磁気研磨法」は約30年前にアメリカ、ヨーロッパ等の先進国に先駆けて開発研究に着手。世界的な第一線の研究・技術レベルである）

学長―それは良い考えですね。そういう機会ができたなら積極的に考えましょう。学生時代に思いっきり自由があつて、自由な環境の中でとことん深く考えることは非常に大切ですが、若い時に深く深く考えるときがあるのは人生の中で必要だと思います。

石川―学長先生の学生時代は、どんなことを考えていましたか？

学長―近くに金沢大学があつたので高校の担任に進められて工学部に入りました。学生時代にはいろいろな哲学書も読みました。とにかく学生時代はまじめだったように思います。私の体験では、まじめに一生懸命やっていたら、思わぬ良い方向にいくもんです。一番重要なのは人と人との信頼関係です。人を信じてと仕事がかどる一面があります。欲ばらず、一生懸命にやっていると自

石川 賢祐（いしかわ けんすけ）
教育学部総合人間形成課程3年

食糧と環境は世界共通の重要な課題 雑草科学研究を通して地域に貢献

宇 都宮大学雑草科学研究センターは、日本で唯一の雑草に関する研究センターです。「環境と植物（雑草）」、「作物生産と植物（雑草）」、「植物（雑草）の優れた能力を発見する」等の雑草科学研究を通して地域に貢献しています。

今回は、トムソン・ロイター（本社／ニューヨーク）選出の第3回「リサーチフロンティアワード」を受賞したセンター長・米山弘一教授に、研究を通しての地域貢献を伺いました。

取材協力／教育学部2年・柴崎拓也、農学部1年・鬼塚希美子

REPORT 宇都宮大学 雑草科学研究センター

ことはできません。

約20年前に、栃木県的那須で、外国で問題になっていて日本にない雑草が、輸入した飼料を食べた家畜の糞から発芽し、問題になりました。今は厳密にやっているはずですが、

日本に入ったら大変なものもあり、本当に危ないのかどうか国の機関がリストを作って調べています。

逆に現地では問題にならないが別の国に行くときに急に悪者になるような種類もあります。いろいろな原因がありますが、病気などの天敵が存在しないのです。マツノザイセンチュウは日本では問題になりましたが、アメリカやカナダでは問題にならなかった。外国の例が日本でそのまま適用できるかといったところではない。良い面は伸ばして危ないところは取り除くことです。

日本でもガーデニングが盛んですが、インターネットで簡単に種が買える。検査もされないまま入って、

● 食糧増産のために

約40年前にこのセンターが設置されたときには、戦後の食糧不足から、米の増産をしなければならなかった時代でした。その頃の農家が一番大変だったことは、炎天下で田んぼに入っ

て腰をかがめて草を取ることで、それを軽減しようと、一番最初に除草剤の研究をしました。



米山弘一 / 宇都宮大学教授、雑草科学研究センター長、専門：農芸化学、生物生産化学

庭から畑などにも広がり、自然公園に生えて問題になったりします。人が入れたのだから人が取り除かなければなりません。

● 雑草科学研究の拠点として

「リサーチフロンティアワード」を受賞した研究は、植物の根から分泌される「ストリゴラクトン」と呼ばれる植物ホルモンの単離・構造解析、作用機構および合成経路の解明です（下図参考）。

ヤセウソバなど農業に大きな被害を与える根寄生植物は宿主植物の根から分泌されるストリゴラクトンに反応して発芽します。ストリゴラクトンは、本来、植物の根に共生して栄養分を補給するアーバスキュラー菌根菌（AM菌）が宿主根を見つけて出すために利用するのですが、根寄生植物が「悪用」しているのです。

ストリゴラクトンの生産・分泌の調節ができれば、AM菌の共生を促進して植物生産を向上させたり、環境耐性を付与したり、アフリカ、中近東、アジア、地中海沿岸諸国の農業生産に壊滅的な被害を与えている根寄生植物を制御することが可能になると期待されています。

研究方法は天然物有機化学が中心ですが、テーマによって分子生物学、植物生理学などからのアプローチも試めています。

ストリゴラクトン研究が、寄生植物から菌根菌へ、そして植物ホ

て、雑草の弱点を見つけます。

食糧を生産する農家のニーズに添える地域貢献のはじまりでした。そして、時代の変化とともに、「農薬の害」、「生態系の破壊」、「砂漠化」など、さまざまな「食糧と環境」に関する課題のもとに研究がすすめられ続けています。

● 適材適所で活かしてあげる

いろいろな環境のところに、いろいろな植物が生育します。人間が栽培しているのではなく、野生植物、雑草が生育します。

日本の場合には名前がよくわからないのは「雑草」といいますが、適材適所で活かしてあげればよいと思います。乾燥に強ければ砂漠の緑化につながる。塩害で塩をかぶったようなところなら塩をたくさん吸収する雑草を植えるとか。

しかし、雑草を均一に育てることは難しいのです。もともと作物は雑草から選抜して手をつけた野生の植物です。作物は遺伝的に単一、クローンですから、病気が起きたときに全滅してしまつた。

遺伝子的に多様な雑草を遺伝子資源として見直し有効利用しようというのが雑草研究のひとつです。作物ではない植物はだんだん芽が出る。それが生き残るすべ、生存戦略です。一斉に芽が出たり花が咲く作物は自然生態系からすると、ちよつと異常なんです。だから人間が手を加えない

ルモンへと発展し、その成果を認めていただきました。今後は基礎と応用の両面で研究を深めていきます。

これからも当センターは、雑草科学研究の拠点として、雑草が引き起こす人間・食糧・環境に関する諸問題にチャレンジし、その成果を地域社会に還元していきます。

＊世界的な情報サービス企業「トムソン・ロイター」は、各学術分野から今後飛躍的な発展が期待される日本の卓越したリサーチフロンティア（先端研究領域）科学全体を22の研究分野に分け、被引用数が上位1%の高被引用論文を特定し、共引用がある頻度以上で起きている論文を分析）として、全世界6762の中から、7領域とその研究領域をリードする16名の日本の研究者を発表した。



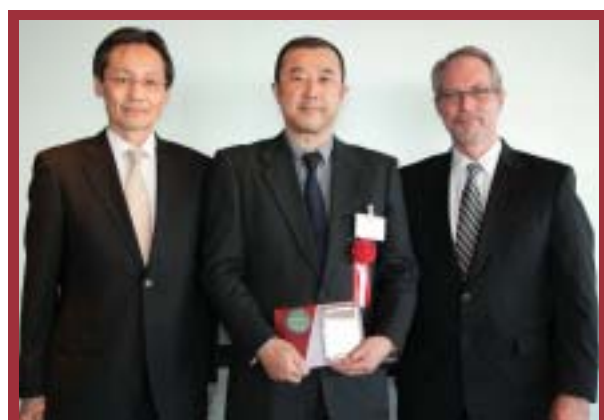
研究室で学生たちに図で説明する米山教授（写真右・柴崎、中・鬼塚）

いとだめになるんです。

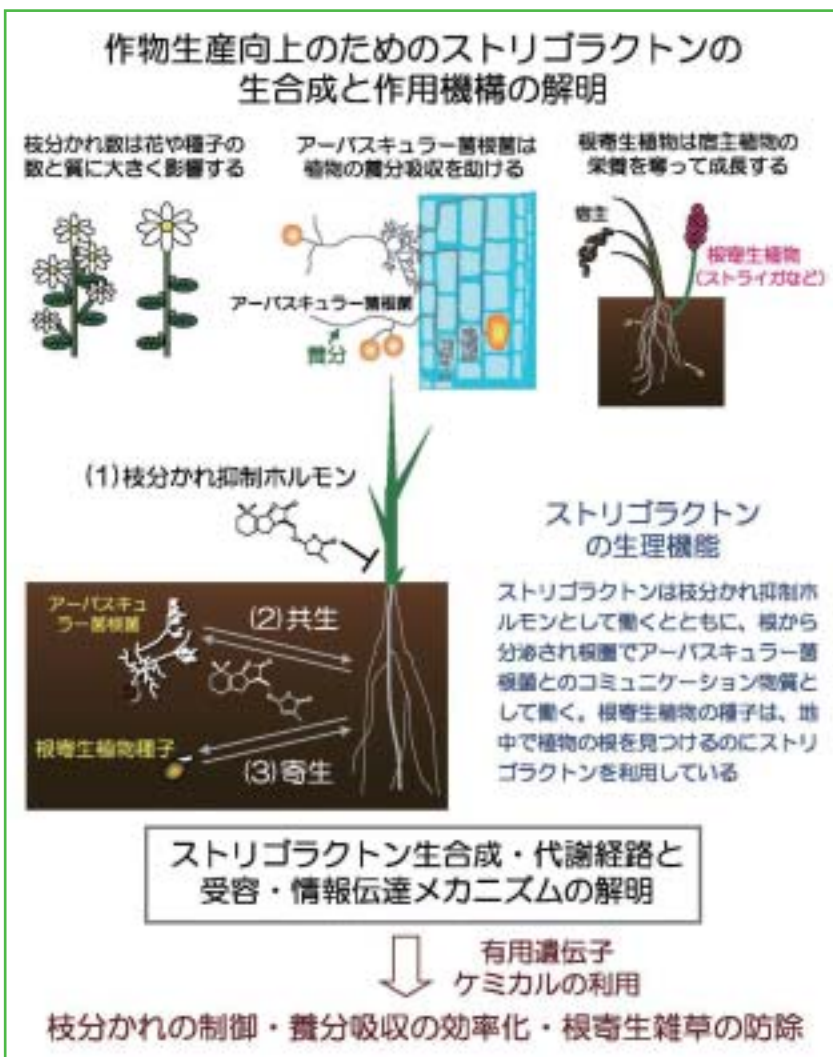
日本は植物が生育するための環境に恵まれています。雨が降って、陽があたって。ものすごく寒いこともない。しかし、作物が育つところは雑草も育ちます。雑草に養分やスペースをとられる。作物の生育が悪くなると商品価値が下がります。作物生産に障害になる植物（雑草）の制御の研究が必要となるわけです。

● 人が入れたのだから人が取り除く

今、外来の雑草が問題になっていますが、いろいろな植物が外国から入ってきて知らないうちに広がっています。今のところ水田や畑には生えていませんから、それほど問題になっていませんが、多いのは道路沿いや川沿いなど人の行くところです。成田空港や横浜は日本にないはずの植物が生えています。全部を止める



「リサーチフロンティアワード」授賞式。米山教授（中央）とトムソン・ロイター社の代表者（右）及び同社日本代表者（2012年2月21日/於東京）
米山教授他4名の研究者が「植物ホルモン機能の発見によるストリゴラクトン研究の新展開」の領域で選定された



Welcome to 研究室&ゼミ



吉澤史昭 教授

●ゼミ概要

アミノ酸などの栄養素によって、人間や動物の体の機能を調節する研究をしています。アミノ酸は体を構成するタンパク質の材料であると同時に体の機能を調節する機能ももっています。この生体調節機能のメカニズムをラット、ウマ、鶏などの動物を使った実験によって解明することがこの研究室のテーマです。こうした基礎研究と並行して、栄養素の機能を医療や食品分野、畜産分野へ応用利用する研究も進めています。



高橋麻奈美

小池慎一郎

●ゼミ生から

高校生のときにダイエットで食事を制限し、体重は減少したものの体調不良になる経験をしました。食べ物はすごく大事だと気づき、「食」に興味を持ちました。アミノ酸が血糖値のコントロールに有効であるとか、栄養素の機能を知るとは楽しい。その機能を生かすことができたらという期待感を自分自身感じますし、医療への応用を考えると研究にやりがいがあります。ゼミでは他の人の研究や最新の情報に接することができるので、とても勉強になります。

農学研究科生物生産科学専攻修士課程2年
高橋麻奈美

もともと生命の働きを分子レベルで研究する分子生物学に興味があり、分子生物学の手法を用いて生体調節のメカニズムを解析する栄養制御学研究室に進みました。ふだん口にしていない栄養素にはいろいろな機能がありますが、まだまだわかっていない部分がたくさんあります。そこを一つひとつ掘り下げていって、その機能のメカニズムを自分で発見していく楽しみがあります。将来の仕事に生かせるよう、知識と実験スキルをしっかり身につけたいと思います。

東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程1年
小池慎一郎



●学生から

普通に暮らしているなかでは、国際人権法とはどういうものなのか、実感しにくいのですが、授業を通して、実は、私たちにとても身近なものであるということがわかってきます。特に気にすることもなく見過ごしていたニュースの中に、人権の問題と決して無関係ではないものがあることに気づかされ、メディアが伝える情報の背景を考えられるようになりました。

国際社会学科3年 松尾理穂

●教員から

国際人権法は、NGO活動においても盛んに使われています。例えば、アムネスティ・インターナショナルのような国際的な人権団体は国際人権法を根拠に、各国政府に人権保障・救済を要求します。こうした活動が、国際的な世論を形成していくのです。

国連の人権機関には、NGOなど市民社会が参加できるシステムができあがっています。国際人権法を根拠に日本国内の人権状況について情報提供、問題提起し、それに対して国連の人権機関が審査し、提起された問題を解決・改善する勧告を出すのです。

例えば、2001年に、国連の社会権規約委員会が「原子力発電施設の安全性に関わる問題について透明性を向上させ、かつ関係住民に対してあらゆる必要な情報をいっそう公開すること。さらに、原子力事故の防止および事故に対する早期対応のための計画の作成を促進するよう促す」とする勧告を出しました。

これは、東海村の原子力事故で被ばくした作業員が死亡したことについて、日本のNGOが社会権規約の「健康に対する権利」に基づいて問題提起したこと

●授業概要

国際人権法とは、国連などによってつくられた人権に関する条約や宣言、それを実施するための国際的および国内的な制度や手続きの体系をいいます。

今日、人権問題は国内にとどまらず国際関係の重要なテーマで、その際、国際人権法をふまえて議論することは不可欠です。日本も国際人権法の影響を否応なく受けており、人権条約の締結、国連機関による人権問題の指摘や勧告、国内裁判所による人権条約の適用などを通じて、日本社会における人権のあり方を変える契機になっています。本授業では、実践的に活用される国際人権法の基本的な知識と理論の全体像を学びます。



国際人権法の発展の歴史を追っていくことで、その当時の人々の考え方や営みなどが見えてきます。そこから、この法律が生まれた背景を考えることがおもしろいですね。今井先生の演習も履修していますが、授業では基礎的なことを学び、演習では各自がテーマを決め、深く掘り下げていきます。私は、アフリカを例に、女性の人権について研究しています。

国際社会学科3年 川島正恵

対する勧告です。福島原発の問題にあてはまるような勧告がすでに10年前に出ていたのです。

国連への情報提供、問題提起の手続きは比較的簡単で、学生にもできます。授業では、こうした具体的な手続き方法も学びます。国際学部には、国際的な場面で活躍することを希望する学生が多いと思います。私は、人権や平和の問題に関心を持ち、積極的に外に発信できる若い人を育てたいとの思いで国際人権法を教えてきました。

昨年起きた「アラブの春」では、世界中の若者が民主化や格差是正を要求し立ち上がりました。ネット上でモノ言う権利も、平和的な手段で集会を開く権利も、国際人権法を根拠に主張したのです。

国際社会学科教授 今井 直



今井 直教授

国際学部 国際社会学科 国際人権法

農学部 生物生産科学科 栄養制御学研究室

研究 Keyword

偏差から構造を読み解くー帰納主義への批判ー 18世紀の思想家・デイドロの研究から

宇都宮大学国際学部 准教授 田口 卓臣

■領域横断

大学4年生のとき、友人から18世紀フランスの思想家で『百科全書』の編集者として知られるデイドロの『ダランベールの夢』を手渡されました。論点が自然科学から社会科学、人文科学へと領域横断する途方もない作品でした。「石と私の体はつながっているか」。こんな哲学的対話が展開するのですが、その過程でデイドロがあぶりだすのは、「いかなる者も対象に対し価値中立的ではありえない」ということでした。

『ダランベールの夢』をきっかけにデイドロにのめり込むなかで、私の思考方法もできあがっていきましました。いまは、デイドロや18世紀思想における「自然のメカニズムの解明」の問題が、私の研究課題です。

■産業技術社会への疑い

デイドロのいくつかの作品は、18世紀科学思想の大変革に関わったテクストとされています。一言で言うところ、「合理主義から経験主義に移る革命」、「演繹から帰納に移る革命」のモニメントとされているのです。18世紀は、それまで演繹の方法に



『デイドロ 限界の思考
ー小説に関する試論ー』
(09年/風間書房)

偏りがちだった思想家たちが、帰納の重要性を再認識した時代でした。実験と帰納を通してつくられた自然観、科学技術を応用していけば学問や社会が進歩し、幸福になっていくという一種の進歩主義史観が芽生えました。デイドロは、この動きの象徴的な存在として引きあいに出来ることが多いのですが、きちんと読むと、実は彼は、演繹と帰納の両方を批判しているのです。

では、デイドロは何に注目したのか。さまざまな論点がありますが、私が一番注目しているのは「偏差から構造を読み解く」ということです。例えばコンピュータにバグ（プログラムに含まれる不具合）が発生したとき、通常は「バグは例外的な存在、ノイズに過ぎないので、これを直せばシステム自体はすべてうまくいく」と考えます。それは、ある意味では帰納主義的な考え方です。

ところが、デイドロの発想はまったく逆で、ノイズこそがシステムを

規定しているのではないかと考える。ノイズに見えるものを、例外と見なさないのです。通常であれば、出来事の99・9%が成り立っているならばOKと見なしますが、デイドロは、0・1%の側に立つ。0・1%がシステムを壊すのは、どのような場合なのかを考え始めるわけです。破壊的な考え方なのですが、「3・11」の福島第一原発事故後、デイドロの言いたいことがわかったような気がします。

デイドロの発想からすると、想定外という言い訳は、あってはならない。つまり、期待や法則の外にはみでたものに敢えて注目して、そのシステムが成立する条件を考える。それが、彼の「科学」なのです。偏差から構造を見ようというのは、極小の部分への着目を通して「全体」を透視する思考法です。ノイズ、ゆがみ、例外と見えるものに、まさに、全体の縮図を見いだそうとする。

たいいていの自然科学者には、この発想が薄いように見えます。その上彼らは社会的、倫理的にリスクをはらんだものに鈍感になりがちです。その原因は、科学の限界を忘れさせ



「渋沢・クロード賞特別賞受賞」授賞式



国際学部国際文化学科 准教授 田口 卓臣

＊渋沢・クロード賞
日仏両国において、相互間の文化に関するすぐれた研究成果に対して贈られる。（日仏文化会館HP）

る産業技術社会の仕組みそのものにある。「自然の複雑で変化に富んだメカニズムを前にして人間の認識には限界がある。謙虚になろう」と、デイドロが発していた警告を、私たちは忘れてしまった。このことを証明する論文を書いています。

■結晶は極微の弱点から壊れ始める

私は、「福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト＊」で福島原発事故の自主避難母子の支援に関わっています。この問題は、世間から見ると例外中の例外とされてしまっています。ひとはまったくこの問題を注視しない。しかし、当事者への聞き取り調査を通して、冷淡に弱者を切り捨てた日本社会の本質が見えてきました。まさに社会の差別的構造がもたらすゆがみであり、放置すれば、たいへんな禍根を残すでしょう。

5月に開かれた本学国際学部主催の公開シンポジウム「3・11原発事故と国際学の未来」にコメンテーター



国際学部の公開シンポジウムで（2012年5月19日）

＊「福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト」
<http://cms.u-tsukuba.ac.jp/isp/proj1.html>
（宇都宮大学文化公開センター）

として参加した私は、雪の研究で知られる物理学者、中谷宇吉郎の『科学の方法』の文章を引用しました。「結晶が壊れるときは、極微の弱点のところから壊れ始める。そして、いったん壊れ始めると、そこがますます弱くなって破壊が進行する。破壊の現象では、極微の弱点が重要な要素として現象を支配する」。「極微の弱点」とは、私の言葉で言えば、「偏差」「ゆがみ」です。

自主避難母子や原発作業員の問題は、例外でも何でもありません。日本社会を解体しかねない「弱点」だと私は考えています。

■不在のひとと一緒に考える

デイドロを研究すること、古典を解釈することは、死者とともに考えるということだと思えます。これは、ここにいらないひとと一緒に考えるという意味で、未来のひとたちとも考える姿勢とどこかでつながっています。たとえば、未来の世代をおびやかす社会は、仮にいまを生きている地球の60億人が全員同意したとしても、間違っていると断言できずはならない。ここにいらないひとの視点に立つことで、60億人の同意すら自明ではなくなるのです。

ここにいらないひとともに考えない思考は、どこかしら嘘が混ざってくる。死者や未来世代への畏れを持たない思考は、どんな分野の学問であれ、「学問」の名に値しないと私は考えています。

お膳立てされていないものに魅かれて

私の学生時代

学生時代に主演した自主映画が、ぴあフィルムフェスティバルで大賞候補になった。小劇場演劇の俳優・舞台監督も経験し、寺山修司の伝説的な前衛演劇に参加したひとの話をかたむけた。文芸同人誌の執筆・編集。芸術家の指導でギャラリーで展覧会を開催。建築家とともにインドネシアの伝統的な高床式住宅を現地調査した。フランス留学から戻ってからは、既存の経済システムに乗らない、支え合いのネットワークづくりを目指す地域通貨運動にのめり込んだ。

自主映画の監督は、その後商業映画の監督になり、同人誌の仲間には文芸評論家になった者もいる。地域通貨運動では遺伝子組み換え反対の有機農家や、東北の箸職



フランス留学時代。友人たちと（写真：右端 / 1999年12月）

人たちと交流した。学生時代の活動を通して、多様なひとたちと出会えた。「これが私の専門です」と限らず、あちこち無鉄砲に手を出してきたことが、いまの仕事の基礎体力になっている気がする。

同性愛者でないにもかかわらず同性愛をテーマにした映画に主演したのは、いま思えば滑稽だが、やろうと思ったときは、何か嗅覚があったはず。たぶん「これをやりなさい」とお膳立てされたものではないものに魅力を感じたのだと思う。成果があったのかはわからない。恥ずかしい失敗ばかりだった気もするが、そのときそのときで全力投球だった。その経験の濃度というものは、とても大事なことだと思える。

かつて大学には、いろいろな人間が集まってきて、荒唐無稽なことができる環境があった。それが許された最後の時代だったのかもしれない。いま多くの大学キャンパスでは、汚いという理由で立て看板すらない。同じ理由で母校の小劇場や学生寮も撤去された。でも、空間をノイズで埋め尽くすようなものが、大学にはあっていいのではないか。

【田口卓臣】

My Campus Life



学生時代に手がけた出版物



「林カフェ」メニュー



ありますが、それらを払拭したいとも思います。

何か家のものを買うときって、家そのものでも家具でも、身の回りの細かいものでも、おかあさんが発言権や決定権をもっている、女性が多きな位置を占めていることが多い。だから、女性性が木のこともっと知っているといいと思いました。

また、女子に焦点を当てることにより林業をアピールしやすいということもありますね。

— 同様の女子会が全国各地で発足していますね。発足してから約3カ月ですが、今までの活動内容を教えてください。

「林業女子会@栃木」は全国で5番目の発足となり、今回5月に初めて「林カフェ」を開催。コーヒーやお菓子を食べながら地元栃木県にスポットを当てて「森のことについて勉強しませんか?」と呼びかけました。

これまでも、森林に携わる女性たちや、県職員の方たちにお

話を伺ったり、県内の林業関係の現場を訪ねたりしています。

名木百選巡りや、桐下駄職人さんや日光の「杉線香」の見学などをして、栃木県の良さを再確認できました。

日光の「杉線香」って、杉の葉っぱと水だけで作っている線香なんです。他の線香は香料とかが入っていますが、自然のままの杉の香りの線香です。

— 現在、栃木県に住んでいる僕たちも、「杉線香」など知らなかった。ところで女子会を発足して良かったことは?

良かったことはたくさんありますが、やはり、人とのつながりが一番良かったことですね。見学や学びによって得意分野の人たちと出会えたり、視野が広がりました。お互いに高めあえます。

今までのように授業を受けるだけの受け身姿勢ではなくて、自分たちで積極的に見学したりするのは楽しいですよ。

他の林業女子会やレディースネットワーク21のみなさんとはフェイスブックなどでゆるくつながっており、イベントの連絡など、情報を交換できることも良かったことです。

— 授業とは別な活動ですね。良かったと思うことをもう少し話してください。

県内の林業を知ることができたのは大きいと思います。情報をキヤッチしようという積極的な思い

ができました。

就職活動中においては、林業を職業としてとらえることができるようになります。

日本全体の林業の課題をとらえることができるようになりました。

山が放棄されていたり、林業が衰退するのは日本の国にとっても不利益になると思います。

— 栃木の林業について一言。

栃木の林業を盛り上げたい。森を豊富に有している栃木県であることを知ってほしい。栃木が良質な木材の産出地であることが一般には知られていないんですね。

栃木は環境的にも立地も良い、林業に適した地であると思う。なかなか売り出せずにいると思います。もっと林業が注目されていいと思う。栃木のブランドを自信をもって出してほしい。

— これからどんな活動をしていきますか?

勉強会、現場見学、林業体験森ツアーなどを企画中です。「林カフェ」も続けていきたいので、森林に興味をもっている一般の方にも気軽に参加してほしい。

林業と一般の方との架け橋のようになりたいと思っています。

学園祭では県内の木工職人さんの作品展示販売等をしたり、木工体験などを通して、林業の魅力を発信していきます。

— ありがとうございます。ご活躍を応援しますので、「男子」もよろしくお願いします。



「林カフェ」の一般参加者と「林業女子会@栃木」のメンバー。なぜか、男性も?



日光の「杉線香」見学会



お気に入りのロゴマーク

林業の魅力を伝えたい! 「林業女子会@栃木」



農学部森林科学科 3年・介川友以那
農学部森林科学科 4年・佐藤里沙
農学部森林科学科 4年・遠川千聡
農学部森林科学科 修士1年・福沢朋子
農学部森林科学科 修士1年・望月寛子
農学部森林科学科 3年・水庭誼子
農学部森林科学科 4年・斎藤朱里
広報プロジェクトチーム 教育学部学校教育教員養成課程 2年・柴崎拓也

- 地域で活動する学生たちを訪ねて - Vol.2

【広報プロジェクトチーム】

宇大生は!



「林業をもっと知りたい」「たくさんの人たちに森林を身近に感じてほしい」と、宇都宮大学農学部森林科学科の女子学生を中心に「林業女子会@栃木」(代表・望月寛子さん)が発足した。そんな女子会メンバー取材する広報プロジェクトチームのインタビューは、今回、男子学生1人に任せられた。圧倒的な女子パワーに立ち向かう男子インタビュアー柴崎拓也。

しかし、その迫力ある発言に大いに感銘しながら賛同しまくり!「僕も参加したいなあ。ダメですか?」



— なぜ、「林業女子会」の活動をはじめたのですか?

もっと林業のことを知りたくていろいろ調べていたんですが、「林業白書」を読んで今更であまりにも受け身だったと思いました。もっと勉強したいと思い、「林業女子会@京都」の人たちに会いに行こうと思って、京都の北山林業地に見学に行きました。そこで京都の女子会に参加する機会があったんですね。感銘を受け、これだと思いました。

— でも、なぜ「女子」だけの会にしたのですか? 女性限定には理由がある?

女性ならではの視点があると思いました。林業って、男性ばかりで、きついし、高齢なおじいちゃんやっついて、っていうイメージが

林業女子@栃木 fg.tochigi@gmail.com

ブログ <http://fgtochigi.jugem.jp/> Twitterアカウント fg_tochigi

宇都宮大学大学院国際学研究所公開授業

大学院国際学研究所は、一般市民の皆さまに大学院の授業を公開します。どなたでも受講できますので、ご自由にお越しください。

国際学総合研究B（国際化と日本）「国際化における言語と文化」
日時：10月6・13・20日、11月3・10・17日、12月1日
いずれも14：00～16：00

会場：宇都宮大学（峰キャンパス） 募集人数：50名（先着順）
申込方法：「公開授業参加希望」と明記し、住所・氏名・連絡先電話番号をご記入のうえ、「封書」または「電子メール」にてお申し込みください。

申込先：〒321-8505 宇都宮市峰町350
宇都宮大学国際学部総務係 koksomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
○問い合わせ先：国際学部総務係 TEL：028-649-5164
詳細は宇都宮大学国際学部ホームページ参照
<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

公開研究会

日時：10月23日（火）9：00～16：00
場所：教育学部附属幼稚園
内容：公開保育、保育研究及び講演会（岩立京子 東京学芸大学教授）
事前申し込みが必要になります。
○問い合わせ先：教育学部附属幼稚園 TEL：028-622-9051

第2回ホームカミングデー

日時：10月27日（土）
詳細は決まり次第、大学公式ホームページにてご案内いたします。



UUnow各号は「**峰が丘地域貢献ファンド**」の支援を受けて発行しています。
■賛同企業（五十音順）
（株）足利銀行 / （株）井上総合印刷 / 宇都宮大学国際学部同窓会 / 宇都宮大学消費生活協同組合 / 烏山信用金庫 / 光陽電気工事（株） / （株）TKC / （株）栃木銀行 / ミニストップ（株） / その他金融機関
■峰が丘地域貢献ファンドホームページ
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/found/index.html>

『宇都宮大学基金』へのご協力をお願いいたします <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/index.html>

宇都宮大学では質の高い教育研究の推進と地域貢献活動に強い大学であり続けるため「宇都宮大学基金」を創設しています。本基金の趣旨をご理解いただき、皆さまのあたたくいご支援、ご協力をお願いいたします。
ご協力いただける場合には、所定の振込用紙（右の連絡先まで御請求ください。）にご記入いただき金融機関からお振り込みください。寄附金については大学の学生支援、国際交流、教育研究活動、キャンパスの環境整備等の充実に、有効に活用させていただきます。
今後とも大学の教育研究活動等に対し、格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【宇都宮大学基金の仕組み】



附属図書館を高校生へ開放いたします。

本学附属図書館を高校生の学習の場として開放いたしますのでご利用ください。

開放館：本館（峰キャンパス内）（閲覧席：568席）
開放期間：8月16日（木）～9月30日（日） 9月5日（水）は休館日
開館時間：平日/9：00～17：00、土・日・祝日/11：00～17：00
入館方法：生徒手帳を提示してください。
あわせて受付簿に氏名・学年をご記入いただきます。

○問い合わせ先：附属図書館
利用者サービス係
TEL：028-649-5134



国際キャリア開発基礎・国際実務英語

合宿セミナー「国際キャリア開発基礎・国際実務英語」を2012年9月1日（土）～9月3日（月）にとちぎ青少年センター（予定）で同時開催いたします。詳細は、以下ホームページ参照
<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/index.html>

オープンキャンパス

日時：9月5日（水）9：30～11：30
場所：教育学部附属特別支援学校
内容：・小学部、中学部、高等部の授業参観
・校舎内外施設設備の見学
○問い合わせ先：教育学部附属特別支援学校 TEL：028-621-3871

県民への授業公開【受講料無料】

国際学部では、開倫塾提供講座として国際学部専門科目「国際学特殊講義（国際政治・文明と日本）」を県民の皆さまに開放します。講義を担当して下さる神長善次国際学部客員教授は、栃木県出身の元外交官で、アジア、中近東の大使を歴任された方です。
日時：9月12～14・18・19日（8：50～14：20、3コマ）
9月21日（10：30～12：00、1コマ）
場所：宇都宮大学国際学部E棟3階 1351教室
講義担当者：宇都宮大学国際学部 客員教授 神長善次氏（元外交官）
定員：30名（超過した場合は席数の関係でお断りすることになります。）
○問い合わせ先：国際学総務係 久野まで（028-649-8172）
詳細は宇都宮大学国際学部ホームページを参照
<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

お知らせ 役職員の報酬・給与等の水準公表について
国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、平成23年度の役職員の報酬・給与等の水準を公表しています。
詳しくは本学ホームページをご覧ください。
URL：<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/jyohouhoukoukai/index.html>

宇大発 ベンチャー第1号 ディンプルアート・カラー

東京スカイツリー・ソラマチから全国に発信 商品開発の木村隆夫教授、 「とちまるショップ」訪問

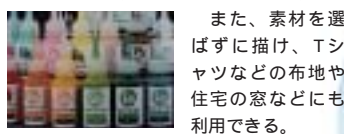
宇大発ベンチャー第1号で、車のフロントガラスの廃材を利用した絵の具『ディンプルアート・カラー』が、東京スカイツリー・ソラマチにオープンした栃木県のアンテナショップ「とちまるショップ」で展示・販売されている。人気の観光スポットで産官学連携による研究開発の成果を全国に発信する。

商品を開発した工学部の木村隆夫教授がオープン間もない同ショップを訪ねた。栃木県など関係者のバックアップがあつて実現した。話題性のある商業施設に置いていただけたことはありがたい」と木村教授。

最寄りの駅を降り地上に出ると、スカイツリーが目飛び込んでくる。「とちまるショップ」はツリーに隣接する商業施設「ソラマチ」の4階。『ディンプルアート・カラー』はショップの工芸品のコーナーに展示されている。

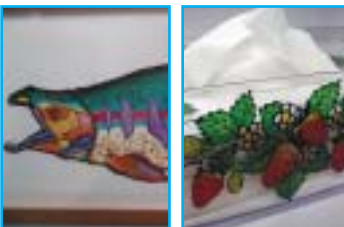
★『ディンプルアート・カラー』とは
木村教授の専門分野は高分子合成。那須烏山市の企業経営者と2003年にベンチャー企業(株)エヌ・ピー・アールを設立し、自動車のフロントガラスに使用されるポリビニルブチラル中間膜を配合樹脂成分として利用し、塗膜表面に凹凸状を再現させる絵の具『ディンプルアート・カラー』の開発・商品化に成功した。

乾きが早く、表面にさざ波のような細かな凹凸（ディンプル）模様を生み出し、ステンドグラス調の作品が簡単につくれる。つや・光沢に優れ、色鮮やか、混色自由で透明感、肉質感が表現できる。



また、素材を選ばずに描け、Tシャツなどの布地や住宅の窓などにも利用できる。

05年、栃木県県民博覧会にて知事賞受賞。06年、レッツbuyとちぎ（新商品購入支援事業）認定商品に選定された。



鶴見さんは「ショップ内のイベントコーナーで体験教室を開くことも一つのアイデアですね。大学発の商品は、栃木県の大が、がんばっていることをお客さまに伝えられます。ベンチャー企業として成り立っていることは、栃木県民としても誇らしい」と話した。

今回の訪問には、本学から高橋香奈実（国際学部国際文化学科3年）と広瀬祥（同国際社会学科2年）が取材協力のために同行。「廃材を利用した商品でエコにもつながるということはすばらしい。そういうところも全国の人知ってもらいたい」（高橋）、「宇大のベンチャー1号と聞いています。パイオニア的な存在で、すごいと思った。僕自身もベンチャーに興味を持っているので、お手本になります」（広瀬）

木村教授は、「新たな『まちおこし』を模索していた人たちとの交流を深める中で生まれたこと、廃材を有効利用していること、ほかの絵の具では表現できない特徴を持つことなど、商品誕生の背景や特色を伝え、それが販売に結びつくようになればいいと思う」と話した。



■問い合わせ先
・(株)エヌ・ピー・アール
那須烏山市金井1-8-5 TEL：0287-83-0077
<http://homepage2.nifty.com/npr/index.htm>
・木村教授の研究室 TEL：028-689-6140
E-mail：kimurat@cc.utsunomiya-u.ac.jp



宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

Sunset in Fukushima city, 2011.7 / Photo : Kazuma Obara

UU now 第28号

■ 企画広報課では、皆さまの声をお待ちしております。
ご意見・ご要望などをお寄せください。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026

URL : <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>

E-mail : plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



宇都宮大学
携帯サイトへGO!

■ 編集協力
栃木文化社・ピオス編集室

■ 発行責任者
石田 朋靖
理事
企画・広報担当

■ 企画・編集
宇都宮大学
UU now 第28号編集委員

■ 編集委員

今成 麻友	国際学部 1年	丹野 裕太	国際学部 2年	加藤 昂平	国際学部 2年	高橋 奈実	国際学部 3年	平野 あやか	国際学部 3年	渡邊 玖実	国際学部 3年	柴崎 拓也	教育学部 2年	上野 希美	教育学部 2年	班目 穂波	教育学部 3年	石川 賢祐	工学部 1年	内沢 絢子	工学部 1年	鬼塚 希美子	農学部 2年	成田 彩乃	農学部 2年	大迫 千恵子	農学部 2年	淡沢 志穂	企画広報課職員	茂木 博	企画広報課職員	太田 幸	企画広報課職員	斉藤 紫乃	企画広報課職員
-------	---------	-------	---------	-------	---------	-------	---------	--------	---------	-------	---------	-------	---------	-------	---------	-------	---------	-------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	---------	------	---------	------	---------	-------	---------